

「JENESYS2024」 北京電影学院学生代表団の記録 (対象国：中国)

1. プログラム概要

【目的・概要】

本事業は「映画」をテーマに10月28日～11月3日まで、中国の北京電影学院に所属する大学生と大学院生を訪日招聘し、映画に関連したイベントへの参加、映画関係者との交流や意見交換を行い、日本及び海外の関係者と映画を通じて相互理解を深めるとともに、同分野での日中間の関係構築の一層の強化を図ることを目的として実施しました。

【参加者】北京電影学院の大学生／大学院生／引率者 合計 30 名

【訪問地】東京・栃木・神奈川

■ プレプログラム

10月18日（金曜日） オンライン事前オリエンテーション

参加者紹介、日程・プログラム説明、アンケート・対外発信・アクションプランについての説明、質疑応答

■ 招へいプログラム：

2024年10月28日（月）～11月3日（日）

10月18日（金）	オンライン事前オリエンテーション
10月28日（月）	来日 東京国際映画祭 オープニングセレモニー
10月29日（火）	柴又記念館 山田洋次ミュージアム 視察 国立映画アーカイブ 視察 歓迎会
10月30日（水）	外務省表敬訪問 栃木へ移動 栃木県 ロケ地若竹の杜 若山農場 視察 日本文化体験（和風旅館宿泊）
10月31日（木）	東京へ移動 TIFFCOM（浜松町）にて「香港イベント」視察
11月1日（金）	TIFFCOM（マーケット）視察 セミナー・ピッチングコンテスト 見学 サモ・ハン監督マスタークラス 参加
11月2日（土）	都内参観

	「アジア映画学生交流プログラム」（黒沢清監督マスタークラス、学生交流会）」
11月3日（日）	歓送報告会 帰国

2. 記録写真

	
2024年10月28日 東京国際映画祭オープニングセレモニー	2024年10月29日 柴又寅さん記念館
	
2024年10月29日 国立映画アーカイブ視察	2024年10月30日 若竹の杜



2024 年 11 月 2 日 黒沢清監督マスタークラス



2024 年 11 月 2 日アジア映画学生交流会

3. 参加者の感想（抜粋）

◆ 国立映画アーカイブでは、日本製の「主流」の映画制作技術や機材の多くの修理に利用する道具を見て、日本の映画技術産業の発展について、より感覚的な理解を深めることができました。国立映画アーカイブのスタッフと古いフィルムコレクションの修復作業について話し合いました。日本の映画制作では、CM 制作会社の関与が高く、また関連する配給作業の進展についても理解しました。

アジア映画学生交流会で、日本の映画学生と深く交流し、日本の映画学生が学んでいる方向性や内容、卒業後の仕事の選択肢などについて把握することができました。両国の映画制作業界の習慣や制度の違いについて意見を交換しました。また、参加していた東南アジアの映画制作者らと映画評論や映画理論などの問題について意見を交換し、東南アジアの映画産業の発展状況についても理解することができました。

◆ 中国でアニメ専攻をしている学生として、日本のアニメ産業が非常に発展していることに気がきました。街角や路地裏には様々なアニメのポスターや映画があふれ、国民の参加度や受け入れ度が非常に高いことを実感しました。映画祭でもアニメが占める割合が非常に高いことを見て、驚きました。私は将来的にアニメについて更なる学びの機会や研究活動を行う機会があることを願っています。また、学生交流活動のおかげで、同じように映画を学んでいるさまざまな国の学生たちと出会い、とてもうれしく思っています。今後もオンラインで交流を続ける機会があるので、ぜひ連絡を取り合い、交流を続けていきたいと思います。社会生活の面では、日本には完璧なルールと仕組みがあり、多くの細かい部分が非常に整っていて、皆がとても秩序正しく生活していることに気がきました。

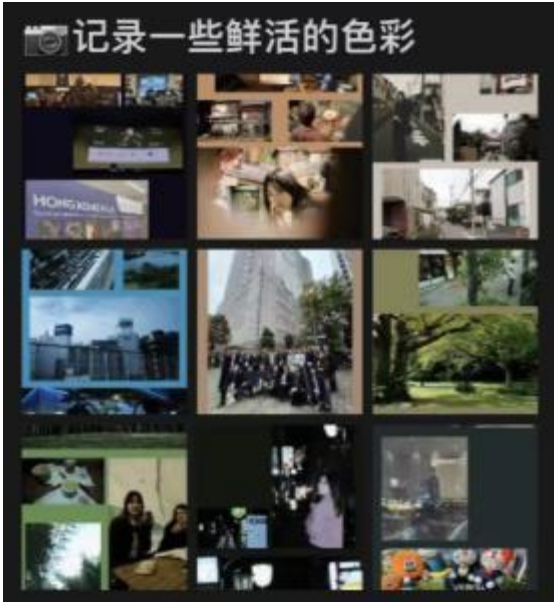
◆ 視察を進める中で、日本文化の魅力を深く感じました。人と人との交流方法や、道徳的な礼儀を守ることに対する徹底的な遵守など、どれも印象的でした。このような国民性は、以前見た日本の映画や

アニメ作品を通じて感じたことがありましたが、実際にその環境に身を置いてみると、改めて驚かされました。東京国際映画祭の関連活動では、アジアの学生たちが注目している題材やジャンルを感じ取ることができ、また現在のプロデューサーがより好んでいるテーマについても理解しました。これは以前の単一の環境とは大きな違いがあると思います。映画関連専攻の学生として、市場から適切な距離を保つことは非常に重要であり、この交流活動により、専門に関するより広く、より国際的な視野を得ることができました。

4. 受入れ側の感想（抜粋）

- ◆ 日本の映画学校の学生を展示室に案内しても反応が少ないことが多いが、この代表団に、日本の映画史について関心を持っていた確かな質問をする学生がいたことはよかった。これからも同時代の映画だけでなく、中国や他の国々の映画史への造詣を深め、自身の映画作りに活かしてほしい。

5. 参加者の对外発信（抜粋）

海内存知己，天涯若比邻。Sa yo na ra. 	六年后再到东京。应日中友好协会邀请，北京电影学院学生代表团出访日本。适逢东京电影节开幕。 
団員による発信（We chat） 「海内知己を存すれば、天涯も比隣の若し」、さよなら。	団員による発信（We chat） 6 年ぶりに再び東京に来ました。日中友好会館の招待を受けて、北京電影学院の学生代表団が日本を訪問しました。ちょうど東京国際映画祭の開幕と重なりました。
 団員による発信（We chat） いくつかの生き生きとした色を記録する。	

6. 報告会での訪日成果とアクション・プラン発表

	
【訪日中の学び】 日本の街の清潔さや美しい自然に魅了され、心のこもったサービスを感じました。街の中で映画祭の時に首からパスをかけた私たちに、控えめながらも、話しかけてくれ、歓迎の意を感じました。 【テーマに関する訪日中の発表】 映画をテーマに様々な深い交流を行うことができました。東京国際映画祭の開会式で世界のトップの映画製作者たちと直接触れ合う事ができ非常に刺激になりました。 【アクション・プラン】 これからも世界や日本との国際交流を続けたいと思います。友情を発展させる事が出来れば、短編映画などの撮影などにも挑戦したいです。	【訪日中の学び】 短い滞在ながら、賑やかな東京から静かな田舎を全て体験できたのはコンパクトな日本ならではのと感じました。栃木での竹林の視察は、しなやかで力強い自然の美しさを感じました。 【テーマに関する訪日中の発表】 日本の映画の特性として芸術性や産業性の両方を兼ね備えた産業である事を学びました。全てのスポットが中国に比べて小さい造りでしたが、精巧に作られておりそれが日本映画の繊細さや緻密さに関係していると感じました。 【アクション・プラン】 自国の映画産業のよりよい発展のために日本映画製作委員会モデルの進化を学術論文の形式でまとめ、今回の旅の総括としたいと思いました。

実施団体名：イオンコンパス株式会社